

(様式第4号)

上田市丸子公民館運営審議会 会議概要

1 審議会名	上田市丸子公民館運営審議会
2 日時	令和4年12月20日 午前10時30分から午前11時45分まで
3 会場	丸子公民館 2階 会議室
4 出席者	竹花のり子 委員、寺尾 雄二郎 委員、吉澤 基 委員、吉村 かつえ 委員
5 市側出席者	小林公民館長、中村次長、佐野主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年12月26日

協 議 事 項 等

1 開 会
2 あいさつ
3 自己紹介
4 協議事項
(1) 正副会長の選任について 会長：吉澤基氏（校長会選出） 副会長：竹花のり子（上田市社会教育委員代表、丸子まちづくり会議理事、CS コーディネーター）
(2) 令和4年度丸子公民館事業について（事務局説明） (委 員) 諮問事項「コロナ禍における公民館事業のあり方」にもあるが、コロナ禍での事業実施にあたっての課題はどうか。 (事務局) 今年度は、コロナ禍でも安全に事業を開催するため、調整を図りながら対応を行ってきた。信州国際音楽村の信州ルネッサンスは、入場時のチェック体制を強化し、リストバンドで参加者の見える化を図った。様々な活動が止まっていた中で、約7千人の来場者があり、参加者からは待ち望んでいたという声が多かった。子どもを対象とした事業については、中止せざるを得ない状況もあったが、信州上田丸子夏期大学は、感染レベル5でも感染対策を徹底して実施した。感染対策を講じながら、実施する予防対策の徹底や中止の周知方法などに課題があった。 (委 員) 信州ルネッサンスは、今年度の出演者の応募者数が多く、コロナ禍前以上であったと聞いた。出演者には、事前説明会で感染対策が周知され、大勢の来場があったが感染者が出なかったことが良かった。コロナ禍でも発表できる場があり、目標をもって活動することの大切さを感じた。公民館も利用できて良かった。 (委 員) 公民館は市民にとって一番身近な施設かつ、事業に参加しない方も利用できる施設である。公民館も更に将来を見据えた新規事業の企画や、双方向で風通しよく広報を充実させ、今までの事業も見直しを図ってほしい。 (委 員) ウィズコロナで感染対策を明示し、事業を中止することなく進めてほしい。市民のやりたい気持ちに応えてほしい。 (事務局) 令和4年度は、丸子地域全体で義仲イヤーというコンセプトがあり、公民館では様々な事業を行ってきた。令和5年度は、姉妹都市のブルームフィールド市郡の受け入れやワールドキ

ャンパスという国際教育団体の受け入れ予定があり、国際交流イヤーとなる見込み。子どもたちの活動にも力を入れていきたい。

(3) 市が自治会に依頼する各種委員の見直しについて（事務局説明）

（委員）自治連との方向性は決まっているのか。今後意見する場はあるのか。

（事務局）委員の見直しについては、自治会の声を吸い上げた自治会連合会からの要望である。今後、分館からの意見も含め聞いていきたい。今年度、丸子地域の分館長にコロナ禍での運営等についての独自アンケートを行ったが、役員の負担より事業に人が集まらないことへの悩みが多かった。旧市と旧町村では、分館運営に違いがある。

(4) その他

（委員）1月31日にまちづくり主催で講演会とワークショップも計画中。公民館運営審議会委員の皆様にも御参加いただきたい。

（委員）新聞記事で「飲みニュケーション」の必要性が書かれていた。コロナ禍で必要がない飲み会が減り、本当に必要な飲み会だけが残ったが、コミュニケーションから情報が伝達され、信頼関係が生まれることもある。この時代こそ必要な物を見極め、繋がりを大事にしていきたい。